

『レター通信』 第 33 号を読まれた方の感想

今号の小谷野さんの記事を大変興味深く読ませていただきました。

私は「自分の人生、何か変だ」と思った 43 才から「自分探しの旅」を 16 年行い、やっと 59 才で終えることができましたが、アートセラピーにより自分を知ることが大きかったと思っています。

小谷野さんは、アートセラピーにより自分の感情をそのまま見ることができるようになり、自分を否定する感情がどこから生まれたのかが分かり始め、その頃から、少しずつ家族や身近な人との関係、日常の行動が変化していくのを感じたとのことですが、まさに、私も同様の体験をしました。

私は大宮のオフィスで小谷野さんのライアーを聴かせていただいたことがあります。会場に柔らかな、穏やかな空気が漂って、気分が豊かになった印象があります。小谷野さんが介護の仕事の中で

「静かに聴く」という行為と出逢ったのは、ライアーの本質である「音の響きが消えるまで静かに聴く」ことと繋がっており、さらにそれがアートセラピーも含めた「自分の本音を静かに聴く」ことに繋がるということかと思えます。「静かに聴く」ことが自分の無視できない心の発見につながる。

素晴らしい発見だと思いました。また機会があれば、ライアーを聴きたいです。

今号の表紙は、穏やかで爽やかな印象を与える心象風景のような絵。素晴らしい作品です。

(男性)

小谷野さんのレポートの中で何回か出てきた『静かに聴く』は、今、私たちにとても大切な事のように思いました。都会にいと、常に人の多さや密度、目からも耳からもたくさんの情報やモノ、音などがワァ〜と溢れて息が苦しくなる時があります。静かな時間、優しい音楽、自然に触れる、内観するなど、少し意識をするだけで、何かが変わる気がします。

(女性)

表紙の絵は、抽象画のようであり、具象的な風景のようでもあり、見る者の心に直接届くような、不思議な感じがします。小谷野氏の寄稿では、ライアーという楽器を初めて知りました。「音の響きが消えるまで静かに聞くことが一番大切」とのことですが、聞く場としてはどこがふさわしいのだろう？ 室内楽用小ホールか？ 残響の長い石造の教会で聞いたらどんな感じだろう？ などと想像を巡らせるのは楽しいものです。

(男性)